

★ウイグル人の人口をめぐる嘘は暴かれるだろう＝ジェームズ・オニール

米英などの反中国プロパガンダの中で、最近注目されているのが、中国西部地域におけるウイグル人の虐待疑惑である。中国政府による抗議も、問題があるというなら現地を訪問してほしいとの中国政府の呼びかけも無視されている。

中国への非難は、大規模な強制労働から民族浄化、ウイグル人住民の大量殺害までさまざまで、女性にたいする中絶や不妊手術の強要も挙げられている。すべては中国政府とその少数民族対策の信用を失墜させようとする試みだ。

事実はまったく異なっている。新疆ウイグル人の先住民族の人口は、実際には着実に増加している。誤った情報のソースはエイドリアン・ゼンツと呼ばれる人物のようだ。ゼンツ氏は「不妊手術、子宮内装置、強制避妊＝新疆ウイグル人の出生率を抑制する中国共産党のキャンペーン」と題する報告書を作成した（昨年6月公表）。

報告のなかには多くの誤りがある。例えば、新疆ウイグル自治区の自然人口増加は「急激に減少した」との主張だ。報告書は、人口増加のこの減少の理由として、女性にたいする「強制不妊手術」を挙げている。実際の状況はかなり異なっている。

中国での最初の国勢調査は、中国共産党の政権発足から4年後の1953年に実施された。当時、新疆の総人口は487万人だった。2010年の国勢調査によると、人口は57年間で3.3倍増加し、合計2,800万人弱になった。

2010年から2018年の間には、新疆ウイグル自治区の総人口は300万人以上増加するなかで、ウイグル人の人口の継続的な着実な成長を反映している。この地域のすべての人口グループは着実な成長を示したが、ウイグル人人口は、2010年から2018年の間に287万人、増加率は22%を超えている。漢人(中国の民族の多数派)は、同じ期間に8,800,000人から9,000,000人に増加したが、こちらは率にして2%である。

民族的な浄化とか組織的な排除だとか漢族によるジェノサイドどころか、ウイグル人の人口は実際には他のどの民族グループよりも速い速度で増加した。

過去40年間、中国は総人口の増加を抑制するため、強力な避妊政策を実践してきた。この政策は民族間で異なる方法で適用されており、ウイグル人も例外ではない。1992年、新疆自治区の家族計画措置ガイドラインが発表されたとき、漢

人は子供を一人しか産めなかった。対照的に、ウイグル人を含む少数民族は2人の子供を持つことができた。農村部では、3人まで許された。中国における子どもの制限期間中、ウイグル人の出生率は一貫して最も高い部類にはいつている。

ウイグル人の出生率が2019年と2020年に落ちたのは確かだ。その理由は複数あるが、ゼンツ氏が引用した理由は一つもない。例えば、主要なプログラムは個人に家族制限を奨励し、避妊教育を広範囲に行つて手段を提供するもので、これ以上の子供を望まない人々のためには卵管結紮を無料でおこなつた。

結婚年齢も同様に変化が見られ、若い時の結婚より、教育を続ける人が増えているが、これはすべての先進国で見られる傾向であり、これらの女性が何らかの方法で「強制」されているなどとするのは馬鹿げている。

教育レベルの改善は、個人の人生に利益をもたらすだけでなく、宗教的な過激主義への誘惑を減らす。これは中国政府がすべての民族の間で促進して成功しているもので、ウイグル人だけ特別ということはない。

新疆ウイグル自治区の現在の出生率レベルは西側諸国に匹敵し、総出生率は現在、平均して1組の夫婦あたり、2人未満である。ゼンツ氏が読者に植え付けようとする、民族抑圧どころか、むしろ社会がより発展した段階に達していることを示している。

要するにゼンツ氏が引用した数字はナンセンスなのだ。この数字は、新疆ウイグル人の人口の成長率と出生権の両方が漢人人口よりも高いことを明確に示している。ジェノサイドがあるとすれば、それは純粋にゼンツ氏の偽のデータで構成され、新疆省の人々が経験している人口統計学的現実ではない。

そのすべては興味深い質問を提起している。ゼンツ氏の虚偽データは、現代の中国に関する否定的な話を喜んで印刷する西側メディアで広く報道された。この点で新疆は特別な注目を集めた。中国政府の抗議は無視されている。中国は西側の政治家に新疆を訪問して自分で事実を確かめるよう招待状を出した。これらも無視された。

西側の政治家といつてもその言いなりになっているメディアは、中国全般、特にウイグル人の人々の扱いに関する嘘を出版し続けることに満足しているようだ。間違いなく、彼らはそれが、真実に似ているものは純粋に偶然でしかないような地域の課題に役立つとみている。中国に対して向けられている虚偽の攻撃はこれだけではないし、これからも続くだろう。しかし非西洋世界の反応が示すよう

に、西洋の嘘には賞味期限がある。これも最後には例外でないことが証明される
だろう。

(ジェームズ・オニール氏は、オーストラリアに拠点を置く元弁護士)

オンライン雑誌「ニュー・イースタン・アウトルック」3月2日

【翻訳 田中靖宏】